

# 日 伯 新 報

日伯新聞附録  
伯羅亞市マエストロ  
カルデン街二〇九  
(ツェルゲイロ二五八)  
發行所 日伯新聞社  
【毎週一回發行】

## 近衛内閣いよく 総辭職しました 帝國の使命立派に果し



去る四日、近衛内閣は總辭職しました。みなさんも、新聞や雑誌

## 新しい東亞建設へ 生れ出た平沼内閣 頼母し、新内閣顔觸れ

近衛内閣の後をうけて、近衛首相のなされ



内閣總理大臣 平沼 一郎  
外務大臣 齋藤 有田 八郎  
内務大臣 廣田 八郎  
陸軍大臣 石原 莞爾  
海軍大臣 米内 光政  
文部大臣 荒木 貞夫  
司法大臣 磯野 季志

## 日 本 中 華 民 國 維 新 政 府 五色旗の由来

日本國の新しい友「中華民

## 支那の人口 日本の凡そ四倍

支那の人口はいくらであるのとは二億五千



府と同じく、五色旗をから順に並べてあり

## 御存じですか 牛の數

世界中に於ける牛の數は五億頭ばかり

## かすてじ存御 牛の數

▲アタシノシンプ ▲ボクノシンプ ▲マイマセウ

### 日本の國ドイツから

## 日本を訪れた親善機

### コンドル機とは……



ドイツの親善機「コンドル」が日本へ飛んで来た。機体には「CONDOR」の文字が見える。

「日本」といへば、サクラをおもひ、サクラといへば「日本」をおもひ浮べるほど、外國の人たちは日本の櫻にあこがれと咲きほころぶ花を愛で賞してゐます。

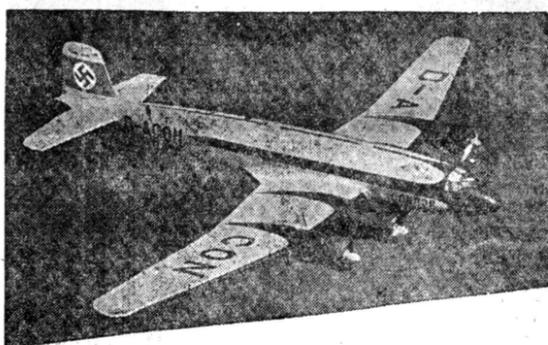
「日本」といへば、サクラをおもひ、サクラといへば「日本」をおもひ浮べるほど、外國の人たちは日本の櫻にあこがれと咲きほころぶ花を愛で賞してゐます。

「日本」といへば、サクラをおもひ、サクラといへば「日本」をおもひ浮べるほど、外國の人たちは日本の櫻にあこがれと咲きほころぶ花を愛で賞してゐます。

「日本」といへば、サクラをおもひ、サクラといへば「日本」をおもひ浮べるほど、外國の人たちは日本の櫻にあこがれと咲きほころぶ花を愛で賞してゐます。

「日本」といへば、サクラをおもひ、サクラといへば「日本」をおもひ浮べるほど、外國の人たちは日本の櫻にあこがれと咲きほころぶ花を愛で賞してゐます。

「日本」といへば、サクラをおもひ、サクラといへば「日本」をおもひ浮べるほど、外國の人たちは日本の櫻にあこがれと咲きほころぶ花を愛で賞してゐます。



ドイツの親善機「コンドル」が日本へ飛んで来た。機体には「CONDOR」の文字が見える。

「日本」といへば、サクラをおもひ、サクラといへば「日本」をおもひ浮べるほど、外國の人たちは日本の櫻にあこがれと咲きほころぶ花を愛で賞してゐます。

「日本」といへば、サクラをおもひ、サクラといへば「日本」をおもひ浮べるほど、外國の人たちは日本の櫻にあこがれと咲きほころぶ花を愛で賞してゐます。

「日本」といへば、サクラをおもひ、サクラといへば「日本」をおもひ浮べるほど、外國の人たちは日本の櫻にあこがれと咲きほころぶ花を愛で賞してゐます。

「日本」といへば、サクラをおもひ、サクラといへば「日本」をおもひ浮べるほど、外國の人たちは日本の櫻にあこがれと咲きほころぶ花を愛で賞してゐます。

「日本」といへば、サクラをおもひ、サクラといへば「日本」をおもひ浮べるほど、外國の人たちは日本の櫻にあこがれと咲きほころぶ花を愛で賞してゐます。

「日本」といへば、サクラをおもひ、サクラといへば「日本」をおもひ浮べるほど、外國の人たちは日本の櫻にあこがれと咲きほころぶ花を愛で賞してゐます。

にベルリンと東京を結びつけたわけて、コンドル機はドイツにある二大飛行機製作会社の一つであるフツケ・ウルフ社製で、八百馬力のエンジンで四つに四千五百キロをひとりで飛ぶことができて、お客さ

ベンが用ひられたのは千九百二十年のことだ。鳥の羽の輪を軸にしたもので、これを千九百二十年のイギリス人ライオンズによって初めてつくられたのだ。

その散り際が鮮やかであまりにも美しいところから、人々に名残を惜しまれ懐かしま

吹く風のパナ、をたたく雨の音、千世子初夏や地もすれすれにツバメトブ達男雨を待つ蛙ボコに家に鳴く美智子

夕立や雷よりも風の音 好江  
犬の親馬車とほるとほえて行く美智子 秀 (四等)

### なぜ櫻は昔から日本を代表する？

「花は櫻木人は武士の誇り、どこから生れた？」

「花は櫻木人は武士の誇り、どこから生れた？」

「花は櫻木人は武士の誇り、どこから生れた？」

「花は櫻木人は武士の誇り、どこから生れた？」

「花は櫻木人は武士の誇り、どこから生れた？」

「日本」といへば、サクラをおもひ、サクラといへば「日本」をおもひ浮べるほど、外國の人たちは日本の櫻にあこがれと咲きほころぶ花を愛で賞してゐます。

「日本」といへば、サクラをおもひ、サクラといへば「日本」をおもひ浮べるほど、外國の人たちは日本の櫻にあこがれと咲きほころぶ花を愛で賞してゐます。

「日本」といへば、サクラをおもひ、サクラといへば「日本」をおもひ浮べるほど、外國の人たちは日本の櫻にあこがれと咲きほころぶ花を愛で賞してゐます。

「日本」といへば、サクラをおもひ、サクラといへば「日本」をおもひ浮べるほど、外國の人たちは日本の櫻にあこがれと咲きほころぶ花を愛で賞してゐます。

「日本」といへば、サクラをおもひ、サクラといへば「日本」をおもひ浮べるほど、外國の人たちは日本の櫻にあこがれと咲きほころぶ花を愛で賞してゐます。

「日本」といへば、サクラをおもひ、サクラといへば「日本」をおもひ浮べるほど、外國の人たちは日本の櫻にあこがれと咲きほころぶ花を愛で賞してゐます。



照宮さまの聴召された

「ええ、あのお話、面白かったです。ちつとよそとでは、なかなか止みさうもありません。

「ええ、あのお話、面白かったです。ちつとよそとでは、なかなか止みさうもありません。

「ええ、あのお話、面白かったです。ちつとよそとでは、なかなか止みさうもありません。

「ええ、あのお話、面白かったです。ちつとよそとでは、なかなか止みさうもありません。

「ええ、あのお話、面白かったです。ちつとよそとでは、なかなか止みさうもありません。



童話「鹽賣仁吉」

「ええ、あのお話、面白かったです。ちつとよそとでは、なかなか止みさうもありません。

「ええ、あのお話、面白かったです。ちつとよそとでは、なかなか止みさうもありません。

「ええ、あのお話、面白かったです。ちつとよそとでは、なかなか止みさうもありません。

「ええ、あのお話、面白かったです。ちつとよそとでは、なかなか止みさうもありません。

「ええ、あのお話、面白かったです。ちつとよそとでは、なかなか止みさうもありません。

「花子、けふはあもしろいから、さうなうして行きました。」

「あら、歌へますわ。」

「九つの子と、兄さん、八つの子と、お母さん。」

「九つの子と、お母さん、八つの子と、お母さん。」

「九つの子と、お母さん、八つの子と、お母さん。」

「九つの子と、お母さん、八つの子と、お母さん。」

「九つの子と、お母さん、八つの子と、お母さん。」

「九つの子と、お母さん、八つの子と、お母さん。」

### 支那兵と闘つてゐる

支那兵と闘つてゐる

支那兵と闘つてゐる

支那兵と闘つてゐる

支那兵と闘つてゐる

### 童話の兵隊さん

童話の兵隊さん

童話の兵隊さん

童話の兵隊さん

童話の兵隊さん

### 苦力の唄

苦力の唄

苦力の唄

苦力の唄

苦力の唄

### イヌノ

イヌノ

イヌノ

イヌノ

イヌノ

### オシヤレ

オシヤレ

オシヤレ

オシヤレ

オシヤレ

### 併句

併句

併句

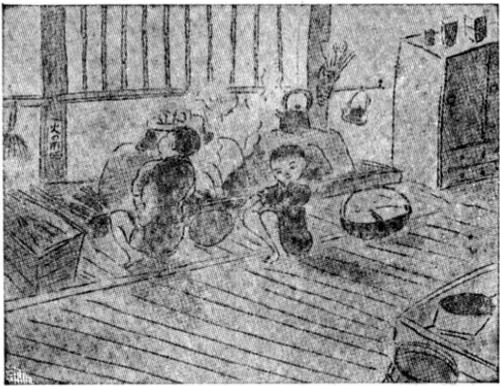
併句

併句

# 風の中の子ども

坪田 讓治

(29)



三平は床に入つたが、いふのである。  
 「母さん、朝はまだ中だねえ。」  
 「さうとも。」  
 三平は朝になつたら、自分で場所をつくりだす。二時間すると、彼はまたゴソゴソと起き出した。  
 「どうしたの？ 三平ちゃん？」  
 「今、何時？」  
 「さあ、十一時かねえ、十二時になるかしらん。」  
 三平は床に入る。彼はロクも寝ない。四時頃であつた。彼は急にグッスリ眠つてゐる善太の耳に口寄せた。  
 「兄ちゃん。」  
 小さい聲で呼ぶのであつた。「兄ちゃん、起きない？」  
 善太は中絶がさめない。

「どうしてつて、今日から二人で場所をつくりださないか。」  
 「場所？ どうしてするの？」  
 「昨日いつたぢやないか。」  
 やつと善太は半身を起した。腰方まで眠らなかつたお母さんは今グッスリ眠つてゐる。二人はそつと蚊帳を出た。蓋しやがみ込んだ。善太がタキ

ツケに火をつける。それが燃え上つたところで、彼の顔を押し込んだ。一度に四本も入れたもので、煙が口の方へモヤモヤ流れ出した。フウ、フウ、フウと、善太は煙をふくまはして吹いた。煙は、涙がポロポロ出て来た。三平は口を寄せて、フウ、フウと加勢した。二ツの口も及ばない煙である。  
 「おい、團扇早くとつて来いよ。」  
 三平は茶の間へ走り込んだ。煙は茶の間の方まで流れ込んで来た。しかし團扇であほくと、火は勢よく燃え始めた。燃え始めると二人は楽しくなつて来た。  
 「ね、兄ちゃん、面白いね。」  
 夏の朝であるのに、三平は火の力へ手をかざして、温る様子をしたりした。ところがその時、フツと湯気が吹いて来た。二人はビクビクして立ち上つた。三平が叫んだ。  
 「どうする？」  
 「蓋をとればいんだよ。」  
 善太が蓋をとつた。しかし泡は蓋の縁にあふれ、外にこ

ケが入つてゐるのである。側には薪も重ねてある。薪の上で場所をつくりださないか。三平は朝になつたら、自分で場所をつくりだす。二時間すると、彼はまたゴソゴソと起き出した。  
 「どうしたの？ 三平ちゃん？」  
 「今、何時？」  
 「さあ、十一時かねえ、十二時になるかしらん。」  
 三平は床に入る。彼はロクも寝ない。四時頃であつた。彼は急にグッスリ眠つてゐる善太の耳に口寄せた。  
 「兄ちゃん。」  
 小さい聲で呼ぶのであつた。「兄ちゃん、起きない？」  
 善太は中絶がさめない。

**算術**

(尋 三)  
 コノ間私ノ學校デ身體ケンサガアツテ身長アハカワツテモラヒマシタ。ソノ時田中君ノ身長ハ125cmデ、村山君ハ119cmデシタ。田中君ハ村山君ヨリイタクセンチメートル高イデセウ。

(尋 四)  
 先生ガ良雄サンニ、「今マデ算術ノセイキシラベガ6ペンアツテ、ソノ平均ガ、君ハ8點5分ダロ。」トオツシヤイマシタ。家ヘ歸ツテ、答案ノ點ヲシラベテ見マスト、10點、7點、9點、6點、10點、デ一番アトノガマガカヘシタイタダイテキナイコトガワカリマシタ。一番アトノハ何點デセウカ。

(尋 六)  
 定價5ミル500レースノ本ヲ買ヒ、10ミル札ヲ渡シテラ6ミル600ノ釣ガアツタ。何種ノ割引トナルデセウカ。

**先速答**

(尋 三)  
 571 878 252  
 613 605 406

(尋 四)  
 15cm x 8cm x 10cm = 120立方cm  
 1200立方cm ÷ 1000 = 1.2リットル

(尋 五)  
 550km ÷ 8 ÷ 3 = 550km ÷ 24 = 22.91666...  
 × 11 = 150km

**母の請本**

免としし

ある日、兎がす。「これはおいしそ  
 やくと眠つて うだな」と  
 みました。それを ばくりと たべて  
 見たししは、大喜を しまはうとしまし  
 びです。

「これはおいしそ  
 うだな」と  
 ばくりと たべて  
 しまはうとしまし  
 びです。

「おやく 兎を

**自羽皇王**

ジン一  
 ハチ  
 ハチスズメ

ジン二  
 ツギノカタカナヲヒラカキナ  
 ナホシナサイ。

ジン三  
 (一) 次の言葉で短文を作つて  
 いらなさい。  
 イ、はげしく、ロ、

ゼミヲタベ  
 ツギノカタカナヲカンジニカ  
 キナサイ  
 シロイ アライ コ  
 トリ

するとその時、鹿たればよかつた」  
 がすうつと横を  
 走つて行くのが  
 見えました。  
 「あつ 鹿が  
 鹿の方がち  
 そうだぞ」  
 ししは思ひなほ  
 して、すぐ鹿の  
 方を追ひかけま  
 した。けれども鹿  
 走るのが早くて  
 まるで飛ぶやう  
 です。ちぎ見えな  
 かつてしまひまし  
 ました。

**知識の泉**

青い色は眼のつたれなほ  
 すの役に立ちます。赤く本  
 を読んだらして、眼が  
 かれた時は青空や森など  
 ものをみると早くつかれ  
 がなほります。青空のカー  
 テンなど緑色にするのもい  
 い考へです。これと反対に  
 赤い色は眼を早くつかせ  
 ます。

まみれたハ、全力  
 ニ、命令ホ、天地  
 (二) 書取  
 ムカシ、タイシヤウ  
 のモト、テンチ、タ  
 イホウ、ウゴカス、  
 シガイ、ゼンリヨク  
 メイレイ、キタツた  
 イサましい

ある日、兎がす。「これはおいしそ  
 やくと眠つて うだな」と  
 みました。それを ばくりと たべて  
 見たししは、大喜を しまはうとしまし  
 びです。